

5 名古屋大学 工学部合格 / 26 回生 2007 年(平成 18 年度)卒

私の受験勉強は入学後すぐに始まりました。私の目標は、地元の国立大学に入ること。そのために授業の予習や復習は当然の如くやり、補習も全て参加しました。

特に国語や英語は予習をやってこないとその日の授業が無意味になります。1年生の頃から予習や復習の習慣を身につけましょう。普段の授業では、予習・復習の他には普通の集中力で取り組み、内容を理解すれば十分だと思います。ただ、数学や物理については、理解が不十分だと思えば、教科書や参考書を読んで、問題集を何度も解くことが大切です。

苦手科目のある人は、その科目を徹底的に勉強して苦手科目を無くし、その科目を得意科目にしましょう。

国語や英語は基礎をおさえれば点が取れるようになります。特に英語は文法などの基礎ができれば定期考査の英語の科目では学年順位は簡単に上がります。もちろん苦手を克服できるかは個人の努力次第ですけれども。

2次試験対策には、数学の青チャートや、赤本を解いたり、他大学の過去問をやったり、先生に紹介していただいた問題集をやりました。3年生になったら先生にどんな参考書や問題集が良いか聞きに行ったり、3年生の最初の授業とかに紹介してもらった参考書を書店で見ると良いです。自分にピッタリの参考書等が見つかると思います。

試験当日は、これまでの勉強をしてきた自分に自信を持って臨み、無事志望校に合格しました。自分に自信を持つことは大切です。私の場合、当日でもあまり緊張しませんでしたから。

それでは最後に、自分の志望校に向けて精一杯努力をしてください。結果はその後についてくるものです。

6 三重大学 教育学部合格 / 26 回生 2007 年(平成 18 年度)卒

受験を終えてまず思うことは、何より周りの人々のおかげで合格できたということです。「受験は自分一人でするほど甘くはない」これだけは、皆さん肝に銘じてください。

さて、私の「受験勉強法」を紹介したいと思います。

英語は、1年まで全く文法をやらなかったもので、2年で大変苦勞しました。まず、私が考えたのは「小テストで満点を取ろう。」ということです。一見難しいと思うかもしれませんが。しかし、一単元ずつきちんと暗記すれば、半年もすれば文法は完璧になります。何事もコツコツと。英単語も苦手でした。とりあえずターゲットの SECTION①をひたすら覚えました。あとは、英文中の知らない単語を単語帳にしていました。何よりも一番効果的であったのは旺文社の「問題精講」でした。実際、大学入試で使われていた英文なので、同じような単語・文法で何度もつまづきますが、そのおかげでしっかりと知識が身につく、英文にも慣れることができました。

国語は「書くことを面倒くさがらない」ことが大切です。3年になると、記述模試が課題になることが多くなります。そのとき、「書きたくない」「何を書くのか分からない」等、たくさん壁が出てきます。そこで、「先生の話だけ聞けばいいや」とサボったら、大学にはまず受かりません。先生の話だけ聞いても決して自分では「書く」ことはできません。受動的にできるものは受験勉強にはありません。何事も自分でやるのが重要です。能動的に自らを高めることをしてください。古文は、古語と助動詞をやり、きちんと予習をし、慣れてください。漢文も句形を抑え、慣れることが大切です。

数学は、センターで大コケしました。そこで、国立大学の2次試験に向けて「まずは苦手意識を克服する」と「分からないところはほっとかない」という2点に心がけて勉強しました。そうしたら好きになっていました。分からないところをきちんと片づけることが一番。成功への近道になるのでしょうか。

世界史は教科書を取りあえず覚えました。テスト範囲ごとにペンの色を分けると思い出しやすかったです。「ドラクロワの作品が載っているピンクのページの中央あたりに書いてあった。」この記憶の仕

方が私には合っていました。あと、曖昧な事柄は必ず教科書で確認することを怠らないでください。

生物は問題集を一通りやり直し、苦手な部分だけを何度もやり直しました。

あと、私には尊敬できる大切なライバルがいました。いつもテストの学年順位で1桁を取るような人たちでした。最初は全然歯が立ちませんでした。でも、努力は絶対裏切りません。いつの間にかその人たちと肩を比べられるようになりました。この人には勝てないと思うのなら「その人」の何十倍も勉強してください。そうすれば勝てます。あきらめないでください。「自分にはこんな力があったんだ」って、後から驚くことができます。みなさん頑張ってください。